

## 長崎市提案型協働事業提案企画書

団 体 名	アスレティックトレーナー長崎県協議会
提案事業の名称	こどもからだ相談室とアスレティックトレーナー講習会
提案事業の目的	<p>日頃実施しているストレッチで効果が出ない、病院に行くほどではないが時々膝が痛くなるなどこどもの訴えを聞き入れる。こどもの身体に関する相談を受けることで、子ども自身の不安を取り除き、心身ともに健康な生活を送ることができるとの一助となること目的とする。</p> <p>柔軟性チェックやストレッチの実技、練習前後、試合前後の対応など、自分での対処を身につけることで、練習や試合を休まずに問題を解決できる方法を指導し、日頃の活動に希望を抱き、前向きに取り組んでいけるように促す。</p>
課 題 の 緊急性・重要性	<p>長崎市の小学生については運動時間の減少とともに柔軟性低下が問題視されている。柔軟性の改善を目的とした活動も実施されている。しかしながら、すべてのこどもが十分な効果を得られることは難しい。内容を理解できない、実施しているが効果がでないなど一部の取り残されるこどもたちを出来るだけフォローしたい。</p> <p>一方、運動部に所属している子どもに関しては一種目のスポーツに偏る傾向があり同一部位への負担が危惧されている。また、外部指導者の指導に関しては統一されたものはなく、過度の練習量を課しているチームも少なくない。不安を抱えながら練習に参加しているこどもの心身ケアをしたい。</p>
協働の必要性	<p>一団体が学校内での活動を提案することは大変困難であり、学校事情や教員皆様の業務状況が把握できている行政と協力することで学校内の年間の活動や子ども達の実情などが可能となると考える。</p> <p>また本事業に関する重要性をともに学校に伝えていただくためにも、協働ということが大変重要になる。</p>
協働による 相乗効果	<p>活動目的や実際の実施内容などを行政通じて現場の先生方に知っていただくことで、アスレティックトレーナーがトップアスリートだけに関わる職ではなく、子どもの健全な発育と将来に向けての健康維持増進のために関わる職であることを啓発できる。</p> <p>生徒自身、指導者や保護者が改めて成長期の身体の特徴を理解し、食事、休養、運動の重要性を再確認することで健康維持、向上へ積極的に取り組む一助となる。生徒自身に直接伝える機会を設けることで子供のころから自ら健康を維持するための意識と方法を身につけるための一助となる。</p> <p>学校の先生においては生徒指導を実施する際に専門講習準備等の負担、生徒自身の自立を促すことで個々の生徒指導への負担軽減となる。</p>
協働の役割分担	<p>1 提案団体が果たそうとする役割</p> <p>実際に小学校の保健室（または教室）にて、「こどもからだ相談室」を開設し、実際に子ども達の相談に対応する。またはグループストレッチを実施する。</p> <p>中学校に関しては、講習会形式にて講義と簡単な実技を踏まえて講師を担当</p>

	<p>する。</p> <p>2 本市に期待する役割</p> <p>行政には学校関係者、各学校の特徴を理解しているため、モデル校として開始できる学校の紹介や対象学校との連絡など、事業をスムーズに進行させる役割を担っていただく。</p>
<p>提案事業の内容</p>	<p>小学生に関しては個々からだについて抱えている問題について相談を受け、適切な運動やストレッチ、必要に応じては食事休養についてもアドバイスを行う。</p> <p>小学校に関しては生徒と指導者、保護者一同に成長期の身体の特徴とケガの予防に関して講習会形式で実施し、その後個別相談会を設ける。</p> <p>小学校：講演会：成長期の身体特徴とケガの予防（実技：ストレッチなど） 講演会後に個別相談会</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1~2校/月 を目標に公募または営業活動</li> <li>2. 学校体育館にて講習会1時間、個別相談会1時間にて実施する。</li> <li>3. 講習会受講後のアンケート実施し、効果判定。</li> </ol> <p>中学校：子ども相談室（2-4回/週）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究指定校：2校にて保健室または教室でこどもからだ相談室を開設</li> <li>2. 生徒本人が本人の希望または担任の紹介にて相談室を訪問</li> <li>3. 必要に応じて、担任同伴、保護者同伴とする。</li> <li>4. 本人の訴えを問診（主訴、現病歴、既往歴など聞きとり）</li> <li>5. 症状に応じて、食事、休養、運動、ストレッチ指導を実施。</li> <li>6. 症状の変化の有無や効果判定のために、次回の来室日を決めて終了。</li> <li>7. 相談人数や内容等まとめて報告書作成。</li> <li>8. 来室した生徒に問題解決有無アンケート（5段階）実施し成果指標とする。</li> </ol>
<p>提案事業の実施体制</p>	<p>当会にはアスレティックトレーナー（以下、ATと略す）は13名所属しており、その他協カスタッフとしてバスケットボール協会医科学委員会所属トレーナー10名、AT所属施設にて協カスタッフ4名。</p> <p>小学校：2校/月：年間10-12校 小学校事業責任者：能由美</p> <p>中学校：2校；4回/月 相談室開設 中学校事業責任者：橋口浩治</p>

<p>事業 スケジュール</p>	<p>2016年 事業決定以降 モデル的に実施可能な学校や団体に協力いただき、実施方法やアンケート調査方法などを検討</p> <p>2017年4月 小学校：対象となる2校を絞り込み、担当教諭と担当ATにて詳細打ち合わせ、学校行事決定後に日程調整し決定する。 中学校：公募、営業等にて毎月1-2校の予定にて実施校を決定する。</p> <p>2017年5月 小学校：実際に1-2校の講習会、個別相談会実施。 中学校：実際に活動開始。</p> <p>2017年6月～2月まで同様に活動実施。</p> <p>2017年3月 アンケート集計、効果検証。</p>
<p>事業の展望及び 今後の活動展開</p>	<p>小学校は初年度、モデル校を対象、中学校は初年度目標は1-2校/月として、その後、アンケート調査、体力測定結果などを参考にし、次年度事業の改善、変更を決定する。</p> <p>毎年、学生は入れ替わることと、繰り返し、継続して指導しなければ習慣にならないため、数年単位で継続する。</p>